

# Oracle Reports Developer and Oracle Reports Server for AIX

リリース・ノート

リリース 6*i*

2000 年 11 月

**部品番号: J02467-01**

原点情報: Oracle Reports Developer and Reports Server 6*i* Release Notes

このドキュメントには、リリースの時点で分かっている情報をすべて掲載しています。リリース後に明らかになった情報は、通常のカスタマーサポートから入手できます。

**ORACLE®**

Copyright © 2000, Oracle Corporation  
All Right Reserved

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。Oracle Reports Developer、Oracle Reports Server は、Oracle Corporation の商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

---

# 目次

1	はじめに .....	7
1.1	この文書の目的 .....	7
1.2	制限付権利の説明 .....	7
1.3	サーバーのライセンス .....	8
2	概要 .....	9
2.1	リリース 6i とリリース 6.0 の関係 .....	9
2.2	コンポーネントのバージョン番号 .....	9
2.3	RSF コンポーネントの追加のバグ修正 .....	10
2.4	使用可能なキャラクタ・セット .....	10
2.5	日付の扱い .....	10
2.6	データベース・オブジェクト名における非英数字 .....	10
2.7	CD-ROM のマウント .....	10
2.8	このリリースと互換性のあるプリコンパイラ .....	11
2.9	UNIX 上の ORAINFONAV_DOCPATH 環境変数 .....	11
2.10	Oracle File Packager .....	11
2.11	UNIX 上でのヘルプのインストールに必要な追加ステップ .....	11
2.12	インストール後に必要な環境変数の設定 .....	12
2.13	TEMPLATES ディレクトリの欠落 .....	12
2.14	Database Admin スクリプトにおける Oracle Translation Builder (OTB) の必要性 .....	12
2.15	WebDB リスナー (マシン 1 台に 1 つのみ) .....	12
2.16	Oracle Repository との統合 .....	12
2.17	Oracle8i R8.1.6 Server に接続する際の問題 .....	13
2.18	クイック・ツアー .....	13
2.19	Forms のアンインストールによるクイック・ツアーの使用不可 .....	13
2.20	R6i へアップグレードする場合の注意点 .....	13
3	Project Builder .....	14
3.1	初期パラメーターの修正 .....	14

4	Form Builder .....	15
5	Report Builder .....	16
5.1	新しく追加されたビルトイン・プロシージャ .....	16
5.1.1	SRW.SET_XML_PROLOG .....	16
5.1.2	SRW.SET_XML_TAG .....	16
5.1.3	SRW.SET_XML_TAG_ATTR .....	17
5.2	REP-3000 エラー・メッセージ .....	17
5.3	HTML/XML 出力の国際化 .....	18
5.3.1	キャラクタ・セットの識別 .....	18
5.3.2	IANA キャラクタ・セットとそれに対応する Oracle キャラクタ・セット .....	19
5.4	OAS ORACLE_HOME におけるカートリッジの制限 .....	20
5.4.1	UNIX の場合のカートリッジの対処方法 .....	20
5.5	サポートする PDF のバージョン .....	21
5.6	PDF ページの幅の制限 .....	21
5.7	Advanced Networking Option .....	21
5.8	Microsoft IE4 と PDF で確認されている問題 .....	21
5.9	Netscape と HTMLCSS 出力の問題 .....	21
5.10	Reports と Graphics の統合 .....	22
5.11	データ・モデルの制限 .....	22
5.12	Reports と Oracle OLAP Server のバージョン .....	22
5.13	Reports と OLAP Server のための Oracle8 Server の要件 .....	22
5.14	Report Builder と OLAP Server の統合 .....	22
5.14.1	.ORA ファイルの構成 .....	22
5.14.2	Express Oracle8 コンポーネントの Oracle8 8.0.6 ORACLE_HOME への インストール .....	24
5.14.3	Express ディメンション・ソート - 6.0 レポートの要件 .....	24
5.14.4	OLAP Server からのレポート作成時のエラーORA-28575 .....	24
5.15	Reports と OLAP Server の統合の制限 .....	24
5.16	レイアウト・モデルの制限 .....	25
5.17	Web ウィザード .....	26
5.18	バージョンの混合 .....	26
5.19	V1-V2-V8 変換:PLSQL V2 の予約語の置換え .....	26

5.20	レポートの幅と高さのプロパティの場所 .....	26
5.21	NULL チャート列の問題 .....	27
5.22	クラスタ化とクラスタ構成 .....	27
5.23	ドキュメントに記載されていないサーバー構成パラメータ .....	27
5.24	デバッグの中止 .....	28
5.25	ランタイム・カスタマイズのための JRE の要件 .....	28
5.26	PLSQL エディタ:DE_PREFS_TABSIZE によるタブ・サイズの設定 .....	28
5.27	R6i より前に作成された HTML パラメータ・フォームへの行追加の必要性 ...	28
5.28	フィールド・タグでの幅属性の使用 .....	29
5.29	ランタイム・カスタマイズの特別な文字 .....	29
5.30	レポートを DESTYPE=MAIL に送る場合の失敗 .....	30
5.31	HTML レポート出力からのイメージの欠落 .....	30
5.32	Internet Explorer の認証ウィンドウの反復 .....	30
5.33	AIX 上の Reports Web CGI と Apache Web Server .....	30
5.34	Reports と WebDB の統合 .....	31
5.35	UNIX 上の Reports サブレットからのエラー-500 .....	31
5.36	チャート・ウィザード .....	31
5.37	フォントの太さの変更について .....	31
5.38	Reports Server の起動スクリプト .....	31
6	Graphics Builder .....	33
6.1	カートリッジに必要な追加ステップ .....	33
6.1.1	AIX 用 Graphics カートリッジのインストール .....	33
6.2	Unix 上での必要な環境変数の設定 .....	33
7	Query Builder .....	34
8	Schema Builder .....	35
9	Translation Builder .....	36
10	Procedure Builder .....	37
11	Open Client Adapter .....	38
12	各国語サポート .....	39
12.1	すべての言語で確認されている問題 .....	39
12.1.1	Report Builder のユーザー・インタフェースの不完全な翻訳 .....	39

12.1.2	左から右のみの PDF 形式レポート .....	39
12.1.3	一部のウィザード・ボタンのテキストの未翻訳 .....	39
12.2	ダブルバイト言語で確認されている問題 .....	40
12.2.1	シングルバイト・フォントでの編集 .....	40
12.3	日本語で確認されている問題 .....	40
12.3.1	JA16EUC キャラクタ・セットの場合のモジュールの保存不可 .....	40
12.3.2	Windows から AIX への移行時の長さの制限 .....	40
12.3.3	PL/SQL エディタの表示の問題 .....	40
12.3.4	PL/SQL ライブラリ名におけるマルチバイト・キャラクタ・セットの使用 不可 .....	40
12.3.5	XML ファイルからのレポートにおける非 ASCII フォント名の使用不可 .....	41
12.3.6	別の prefs.ora ファイルが必要となる場合 .....	41
12.3.7	PL/SQL インタプリタのメッセージ・テキストにおける言語の混在 .....	41
12.3.8	Unix 上にキュー・カードをインストールするための記憶域の要件 .....	41
12.3.9	イメージのインポート・ダイアログについて .....	42
12.3.10	ファイルのオープン/保存ダイアログについて .....	42
12.4	アラビア語で確認されている問題 .....	42
12.4.1	AIX 上でチャートを表示するための制限 .....	42
13	その他の問題点 .....	43
13.1	ドキュメントに関する既知の問題点 .....	43
14	Oracle Developer for AIX R6i Patch1 について .....	44
14.1	パッチの適用に関する注意点 .....	44
14.2	サポート・プラットフォームの追加 .....	44
14.3	CD の内容 .....	45
14.4	インストール方法 .....	45
14.5	アンインストール方法 .....	46
14.6	このパッチで修正される不具合 .....	46



---

# 1 はじめに

## 1.1 この文書の目的

この文書では、Oracle Reports Developer および Oracle Reports Server リリース 6i と、ドキュメントに記載された機能との相違点を説明します。

## 1.2 制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

\* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

## 1.3 サーバーのライセンス

Reports または Graphics を Web 環境に配置する場合は、Oracle Reports Server とそれに関連するライセンスが必要であることを注意してください。

Oracle Reports Server スケジューラを使用して Reports をスケジュールする場合にも同様です。

Reports Server は、開発目的用に Oracle Developer CD-ROM に含まれていますが、Reports Developer とは別にライセンスされます。

Reports Server の価格に関する追加情報は、オラクル社の営業担当員に問い合せてください。



---

## 2 概要

### 2.1 リリース 6i とリリース 6.0 の関係

リリース 6i はリリース 6.0 とパッチの互換性があります。

リリース 6i を使用して開発を行うが、リリース 6i 固有の新機能を使用しない場合は、パッチ・セットを利用する場合と同じメリットがあります。これらのメリットには、fmx ファイルの再生成が不要であること、上書きインストール、製品動作保証などがあります。ただし、パッチ・セットの適用時に奨められるパッチ・セット・レベルのテストを行う必要があります。（これには、クライアントおよび中間層の、動作保証された環境へのアップグレードが必要となる場合があることに注意してください。）

6i の最初のリリースには、R6.0 Patch4 のすべての修正と、Patch5a、Patch6a でのほとんどの修正が含まれています（バグ 892177、995498、1086525 および 1120902 の修正のみ含まれていません）。

リリース 6i の最初のパッチ・セットは、累積パッチで、Patch5a、Patch6a の残りの修正と Patch7 のすべての修正、さらに 6i 固有の修正を提供します。

リリース 6.0 のパッチ・セット（Patch5a、Patch6a）が適用された実働システムを使用しているお客様、あるいはリリース 6.0 の最後の Patch7 での修正を待っているお客様は、リリース 6.0 を引き続き使用し、6i の最初のパッチ・セットが発行されてからリリース 6i にアップグレードすることをお勧めします。

リリース 6.0 のお客様で、(a) 6i の機能を利用しない、(b) 重大であると考えられるバグがない、(c) 実行環境をアップグレードしない方は、6i にアップグレードする必要がありません。

新しいアプリケーションを構築する計画のあるお客様、または Patch5a よりも前のパッチ・セットとともにリリース 6.0 を使用しているお客様は、リリース 6i を利用することをお勧めします。

### 2.2 コンポーネントのバージョン番号

Oracle Reports Developer R6i の最初のリリースでは、ほとんどの主要コンポーネント（Report Builder など）に 6.0.8 というバージョン番号が付いています。また、ほとんどのサブコンポーネント（Toolkit など）に 6.0.5 というバージョン番号が付いています。これらのバージョン番号は、この最初のリリースのサブコンポーネントに適切なバージョン番号です。

6i の次のパッチ・リリースにおいて、サブコンポーネントのバージョン番号が 6.0.8 レベルに変更される予定です。

また、一部のコンポーネント(Procedure Builder, WebDB など) が、「・・・について」メニューやメッセージを表示する際に、インストーラで表示されるバージョン番号と異なる番号を出力する事がありますが、これはコンポーネント側の表示の誤りで、インストーラにて表示されるバージョン番号が正しいものです。

## 2.3 RSF コンポーネントの追加のバグ修正

この製品のこのリリースには、いくつかの RSF コンポーネントが含まれています。この RSF コンポーネントには、コンポーネントに対する正式な、番号付きパッチ内のコード修正とは別の修正が含まれます。(コンポーネントのこれらの修正またはパッチレベルは、"ワンオフ"と呼ばれることがあります。)

特に、このリリースには、バグ 1063571、1063104、1028960、1049171 および 1040536 の修正が含まれています。これらのバグ修正は、コンポーネント sqlnet、rdbms、nls および plsql に影響します。

## 2.4 使用可能なキャラクタ・セット

このリリースでサポートされる日本語キャラクタ・セットは JA16SJIS です。

## 2.5 日付の扱い

Oracle Reports Developer での日付の扱いに関する重要な情報については、<http://www.oracle.co.jp/year2000/>を参照し、資料と White Paper へのリンクに従ってください。

## 2.6 データベース・オブジェクト名における非英数字

Oracle Reports Developer R6i は、ASCII 文字のうち英数字以外 (!や\*など) を使用した表名および列名をサポートしません。

## 2.7 CD-ROM のマウント

CD-ROM をマウントするには次の手順を実行します。

1.CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。

2.root ユーザーとしてログインし、CD-ROM をマウントするためのディレクトリを作成します。

```
# mkdir /cdrom
```

3.root ユーザで CD-ROM ドライブをディレクトリへマウントします。

```
# mount options device_name /cdrom
# exit
```

例：

```
# mkdir /cdrom
# mount -r -v cdrfs /dev/cd0 /cdrom
# exit
```

## 2.8 このリリースと互換性のあるプリコンパイラ

Oracle プリコンパイラを使用して Oracle Reports Developer R6i 用のユーザー・イグジットを開発する場合は、Oracle8 R8.0.6 に対応したバージョンのプリコンパイラを使用してください。

## 2.9 UNIX 上の ORAINFONAV\_DOCPATH 環境変数

Unix プラットフォームでは、ORAINFONAV\_DOCPATH 環境変数がオンライン・マニュアルの場所に設定されている必要があります。この環境変数のデフォルト値は、英語版のオンライン・マニュアルの場所（\$ORACLE\_HOME/doc60/admin/manuals/US）に設定されています。日本語版のオンライン・マニュアルを参照する場合は、ORAINFODOC\_DOCPATH 環境変数を \$ORACLE\_HOME/doc60/admin/manuals/JA に設定する必要があります。

## 2.10 Oracle File Packager

Oracle File Packager（Reports Developer ドキュメントに記載されています）は、このリリースには含まれません。

## 2.11 UNIX 上でのヘルプのインストールに必要な追加ステップ

Reports Developer ヘルプ・システムを Unix システム上で正しく動作させるには、ORACLE\_AUTOREG 変数を値 \$ORACLE\_HOME/guicommon6/tk60/admin に設定する必要があります。（このヘルプ・システムには、ツールキット・オートメーション・レジストリである autoprefs.oar ファイルが必要です。UNIX 用のオンライン・ヘルプは英語です。）

## 2.12 インストール後に必要な環境変数の設定

インストール終了後、環境変数 `ORA_NLS33` を `$ORACLE_HOME/ocommon/nls/admin/data` に設定する必要があります。

## 2.13 TEMPLATES ディレクトリの欠落

Oracle Forms Developer および Oracle Reports Developer のマニュアル『アプリケーション作成ガイド』には、TEMPLATES ディレクトリについての記載があります。しかし、この製品には TEMPLATES ディレクトリは含まれていません。

## 2.14 Database Admin スクリプトにおける Oracle Translation Builder (OTB) の必要性

Database Admin Build スクリプトおよび Drop スクリプトは、Oracle Translation Builder SQL スクリプトを検出できない場合、失敗します。

この問題は、製品 CD から明示的に Oracle Translation Builder をインストールすることによって回避できます。

## 2.15 WebDB リスナー（マシン 1 台に 1 つのみ）

マシンには、WebDB リスナーを 1 つだけインストールすることができます。同一のマシン上の別の ORACLE\_HOME にもう 1 つをインストールすると、最初のリスナーが機能しなくなる可能性があります。

## 2.16 Oracle Repository との統合

Oracle Reports Developer は、Oracle Repository と統合できます。

このリリース 6i は、ソース制御管理のためにリポジトリとの統合を可能にする d2sc プラグイン（PVCS、ClearCase およびその他の製品に提供されるプラグインと同様のもの）とともに出荷されます。ユーザーは、FMB、MMBなどをチェックインおよびチェックアウトすることができ、リポジトリの依存性追跡やその他の高度な機能を使用できます。（詳細はリポジトリのドキュメントを参照してください。）

この初期機能により、今後の Reports Developer リリースにおける高度なレベルの統合の可能性が確立されます。

## 2.17 Oracle8i R8.1.6 Server に接続する際の問題

オペレーティング・システムの認証を使用して Oracle Reports Developer 製品から Oracle8i R8.1.6 データベースに接続できないことがあります。（この問題はサーバーのバグ 1139334 によるものです。）

## 2.18 クイック・ツアー

AIX では、環境変数 REPORTS60\_DEV2K が FALSE に設定されていることを確認する必要があります。これが FALSE に設定されていない場合は、「ヘルプ」メニューまたは「Report Builder へようこそ」ダイアログから Reports Developer のクイック・ツアーを呼び出せません。

## 2.19 Forms のアンインストールによるクイック・ツアーの使用不可

Report Builder と Form Builder の両方をインストールし、その後 Form Builder をアンインストールすると、Report Builder とその他の Builder の「ヘルプ」メニューにクイック・ツアーが表示されなくなります。

## 2.20 R6i へアップグレードする場合の注意点

R6.0 から R6i へアップグレードする場合、R6i をインストールする前に、まず R6.0 をアンインストールする必要があります。R6.0 をアンインストールする前に、バグ 1263169 に対するパッチを R6.0 の環境に適用する必要があります。

このパッチは次のディレクトリにあります。

```
<CDROM>/PATCH/DEV2K_60/bug1264700
```

このディレクトリにはパッチの適用方法が記述されている README ファイルがあります。R6.0 からアップグレードする場合、R6i のインストールの前に次のコマンドを実行してください。

```
$ chmod -R 775 $ORACLE_HOME/network/jre11/lib
$ chmod -R 775 $ORACLE_HOME/forms60/java/Dev.x509
$ chmod -R 775 $ORACLE_HOME/forms60/java/oracle
```

アップグレードに関する追加情報は「Oracle Forms Server and Reports Server Installation Guide for IBM AIX」または「Oracle Forms Developer and Reports Developer Installation Guide for IBM AIX」を参照してください。

---

## 3 Project Builder

### 3.1 初期パラメーターの修正

**問題:** Report Builder モジュール、Report Builder ライブラリモジュールなど、Report Compiler によってビルドされるよう設定されているモジュールのビルド時に、「FRM-90927 コマンド・ラインのパラメータが不明です。」エラーが出力されます。

**対処:** グローバル・レジストリノードで、各モジュールのプロパティパレットを開き、アクションノードの「・・・からビルド」に入力されている初期パラメーターから、"Minimize=YES" を削除してください。

---

## 4 Form Builder

(Forms Developer 用の別のリリース・ノートを参照してください。)

---

## 5 Report Builder

### 5.1 新しく追加されたビルトイン・プロシージャ

このリリースには次の 3 つのビルトイン・プロシージャが新しく追加されています。

- `SRW.SET_XML_PROLOG`
- `SRW.SET_XML_TAG`
- `SRW.SET_XML_TAG_ATTR`

これらのビルトイン・プロシージャによって、**PL/SQL** の **XML** 出力プロパティを設定できます。各ビルトイン・プロシージャについて、次の項で説明します。

#### 5.1.1 `SRW.SET_XML_PROLOG`

構文:

```
SRW.SET_XML_PROLOG(type, 'string');
```

このプロシージャは、現行のレポートの **XML Prolog** を置き換えます。必要な **XML Prolog** (`<?xml version="1.0"?>`) を指定する必要があります。また、エンコードやその他のコメントを指定できます。

**type:** `SRW.FILE_ESCAPE` または `SRW.TEXT_ESCAPE`。

これは、**string** パラメータがファイル名であるか、挿入されるテキストであるかを示します。

**string:** これは、ファイル名または使用されるテキストです。どちらであるかは、**type** パラメータに何を指定したかによって異なります。

参照: **XML Prolog** 型プロパティおよび **XML Prolog** 値プロパティ。

制限: `SRW.SET_XML_PROLOG` は、レポートがフォーマットを開始する前に起動するトリガー（例、**Before Report** トリガー）内に設定する必要があります。

このビルトイン・プロシージャの使用例は、このリリース・ノートの「**キャラクタ・セットの変換**」に記載されています。

#### 5.1.2 `SRW.SET_XML_TAG`

構文:

```
SRW.SET_XML_TAG(type, 'name', 'string');
```



このプロシージャは、現行のレポート、グループ、外部グループ、または列の XML タグを置き換えます。

type: SRW.REPORT\_XML、SRW.GROUP\_XML、SRW.GROUP\_OUTER\_XML または SRW.COLUMN\_XML。これは、オブジェクトがレポート・オブジェクト、グループ・オブジェクト、列オブジェクトのいずれであるかを示します。また、グループ・オブジェクトである場合、グループの XML タグに対するものであるか、外部グループの XML タグに対するものであるかを示します。

name: 設定される、レポート・オブジェクトの XML タグです。

string: 使用する XML テキストです。

参照: XML タグ・プロパティおよび XML 外部タグ・プロパティ。

制限: SRW.SET\_XML\_TAG は、レポートがフォーマットを開始する前に起動するトリガー（例、Before Report トリガー）内に設定する必要があります。

例:

```
function BeforeReport return boolean is
begin
    SRW.SET_XML_TAG(SRW.REPORT_XML, 'DEPT', 'TOOLS_DIVISION');
    SRW.SET_XML_TAG(SRW.GROUP_OUTER_XML, 'G_DEPTNO',
        'DEPARTMENT_LISTING');
    SRW.SET_XML_TAG(SRW.GROUP_XML, 'G_DEPTNO', 'DEPARTMENT');
    SRW.SET_XML_TAG_ATTR(SRW.GROUP_XML, 'G_DEPTNO',
        'NUMBER="&DEPTNO"');
    SRW.SET_XML_TAG(SRW.COLUMN_XML, 'DNAME', 'DEPARTMENT_NAME');

    return (TRUE);
end;
```

### 5.1.3 SRW.SET\_XML\_TAG\_ATTR

構文:

```
SRW.SET_XML_TAG_ATTR(type, 'name', 'attribute');
```

このプロシージャは、SRW.SET\_XML\_TAG と似ていますが、XML タグではなく属性値を提供します。上記の例を参照してください。

## 5.2 REP-3000 エラー・メッセージ

rwrun60 をバッチ・モードで実行すると、出力の生成中にエラー REP-3000 が発生します。これは、Windows で rdf ファイルが作成される場合に起こります。

出力は正しく生成されます。このメッセージは無視してください。

## 5.3 HTML/XML 出力の国際化

### 5.3.1 キャラクタ・セットの識別

クライアント（ブラウザ）、中間層（Reports Server）、データベースのすべてが異なるキャラクタ・セットで実行される 3 層アーキテクチャでは、データが正しく変換され、表示されることを確認することが重要です。Net8 では、データベース—Reports Server 間の変換を扱います。ただし、レポート出力は Reports Server が実行されたキャラクタ・セットで生成されるので、ブラウザに HTML または XML がどのキャラクタ・セットで生成されたかを認識させることが重要です。

HTML の場合、次の META タグ（通常、<HEAD>タグと</HEAD>タグの間に置きます）でこれを行うことができます。

```
<META CONTENT="text/html; charset=windows-1251" HTTP-EQUIV=Content-Type >
```

XML の場合は、次の Prolog（最初の行）でこれを行うことができます。

```
<?xml version="1.0" encoding="windows-1251"?>
```

上記の例は、windows-1251 キャラクタ・セットに切り替える場合のものです。

**注意：**これらの設定は、Netscape および Microsoft IE に有効です。他のブラウザには、キャラクタ・セットの動的な切替をサポートしないものもあります（例、Opera）。詳細は、<http://www.w3.org/International/>で、この件に関する W3C の資料を参照してください。

レポートの開発者は、NLS\_LANG 環境変数の値を取得することによって、レポートが生成されるキャラクタ・セットを調べることができます。これは、LANGUAGE\_TERRITORY.CHACTERSET という形式です。（たとえば、JAPANESE\_JAPAN.JA16EUC）最後の引数がキャラクタ・セットです。

Oracle キャラクタ・セットは、国際組織（IANA など）が標準を制定する前に定義されたものなので、Oracle バージョンと標準バージョンでは、キャラクタ・セットの名前が少し異なることがあります。

ブラウザは、標準名のみを認識します。したがって、Oracle キャラクタ・セット名をそれに対応する標準名に変更する必要があります。次のサブセクションに、キャラクタ・セットの対応関係を示します。

### 5.3.2 IANA キャラクタ・セットとそれに対応する Oracle キャラクタ・セット

これは、一般的なキャラクタ・セットとそれに対応する Oracle キャラクタ・セットのリストですが、決定版ではありません。

IANA キャラクタ・セット	Oracle キャラクタ・セット
US-ASCII	US7ASCII
ISO-8859-1	WE8ISO8859P1
ISO-8859-2	EE8ISO8859P2
ISO-8859-3	SE8ISO8859P3
ISO-8859-4	NEE8ISO8859P4
ISO-8859-5	CL8ISO8859P5
ISO-8859-6	AR8ISO8859P6
ISO-8859-7	EL8ISO8859P7
ISO-8859-8	IW8ISO8859P8
ISO-8859-9	WE8ISO8859P9
windows-1250	EE8MSWIN1250
windows-1251	CL8MSWIN1251
windows-1253	EL8MSWIN1253
windows-1254	TR8MSWIN1254
windows-1255	IW8MSWIN1255
windows-1256	AR8MSWIN1256
windows-1257	BLT8MSWIN1257
windows-1258	VN8MSWIN1258
EUC-JP	JA16EUC
Shift_JIS	JA16SJIS
EUC-KR	KO16KSC5601
GB2312	ZHS16CGB231280

IANA キャラクタ・セット	Oracle キャラクタ・セット
Big5	ZHT16BIG5
UTF-8	UTF8

## 5.4 OAS ORACLE\_HOME におけるカートリッジの制限

Reports と Oracle Application Server (OAS) を別々の ORACLE\_HOME にインストールしてください。ただし、その場合 Reports カートリッジを正しく機能させるために、以下に説明する方法をとる必要があります。(Reports カートリッジは、起動時にメッセージ・ファイルを検索します。このメッセージ・ファイルが OAS \$ORACLE\_HOME 内に存在しないため、起動に失敗します。)

対処: 次のサブセクションを参照してください。

### 5.4.1 UNIX の場合のカートリッジの対処方法

2 つの ORACLE\_HOME があることを前提とします。Reports ORACLE\_HOME として /private/oracle、OAS ORACLE\_HOME として /private/oas がある場合、次の手順を実行します。

```
cd /private/oas
mkdir reports60
cd reports60
mkdir mesg
cd mesg
cp /private/oracle/reports60/mesg/*.*
```

これにより、OAS ORACLE\_HOME 内に適切なディレクトリ構造が作成され、メッセージ・ファイルが適切な場所にコピーされます。

最後に、いくつかのライブラリを Reports ORACLE\_HOME から OAS ORACLE\_HOME に上書きコピーする必要があります。これを行うには、次の手順を実行します。

```
cd /private/oas/lib
cp /private/oracle/lib/libzrc60.*
cp /private/oracle/lib/libca60.*
```

また、OAS ORACLE\_HOME 内の tnsnames.ora ファイルに、適切なエントリを追加することもあります(これにより、カートリッジが、適切な Reports Server へのアクセス方法を認識できます)。

## 5.5 サポートする PDF のバージョン

Reports は、PDF 1.1 をサポートしています。

レポートに英語ではないキャラクタ・セットの言語（通常マルチバイト）または Unicode キャラクタ・セットが含まれている場合、Adobe Acrobat Reader では、Report Builder によって生成された PDF レポート・ファイルを読み取ることができません。ただし、Reports からポスト・スクリプトを生成し（Reports がポスト・スクリプト出力で正しいフォントを参照していることを確認します）、結果として得られたポスト・スクリプト・ファイルを、「全フォントを埋め込む」オプションを有効にして Adobe の Distiller プログラムに渡せます。これにより、サブセット・フォントが埋め込まれた PDF ファイルが作成されます。その後、Acrobat を使用してその埋込みフォントを持つポスト・スクリプトを生成します。

## 5.6 PDF ページの幅の制限

Adobe Acrobat Reader には表示制限があります。Acrobat Reader が扱うことのできる最大ページ幅は、45 インチです。レポートのページ幅が 45 インチよりも大きく設定され、PDF 形式で生成される場合、Acrobat Reader には何も表示されません。

## 5.7 Advanced Networking Option

Reports Multi-tier Server は、現在、Advanced Network Option をサポートしていません。

## 5.8 Microsoft IE4 と PDF で確認されている問題

Microsoft Internet Explorer 4 から Reports Server を介して PDF 形式のレポートを実行すると、レポート出力がブラウザに表示されないことがあります（ウィンドウの左上端に小さなアイコンが表示されます）。Microsoft IE 4 の不具合が原因で、PDF ファイルがリダイレクト時に空白ページとして表示されます。

これは、IE 5.01 で修正されています。

## 5.9 Netscape と HTMLCSS 出力の問題

Netscape ウィンドウのサイズを変更すると、ページが変形し、そのページの再ロードが必要となることがあります。8 ポイントより小さいフォントは、太字の属性を失います。

「Web プレビュー」オプションを使用して、ブックマークを持つ Reports を表示する場合は、ブックマーク・フレームがリフレッシュされません。レポートを表示するたびに、新しい

ブックマーク・フレームが表示されます。ブラウザを終了してから再起動し、不適切なフレームを削除する必要があります。

## 5.10 Reports と Graphics の統合

Graphics 図表をレポートに統合する場合は、データベースへの接続時に、接続文字列を指定する必要があります。

LOCAL 環境変数またはレジストリ・エントリが定義済である場合でも、接続文字列を指定する必要があります。これを行わない場合、統合できません。

## 5.11 データ・モデルの制限

問題: 「ツール」→「作業環境」メニューより、作業環境ダイアログの「一般」タブで「オープン時にレポート・エディタを表示しない」がオンであるかオフであるかに関わらず、モジュールのオープン時に、最初にレポート・エディタがオープンしません。

対処: 「ツール」→「レポート・エディタ」メニューを使用します。

## 5.12 Reports と Oracle OLAP Server のバージョン

Reports は、Oracle OLAP Server R6.2 または R6.3 とともに動作することが保証されています。

## 5.13 Reports と OLAP Server のための Oracle8 Server の要件

Reports と OLAP Server の接続には、Oracle8 R8.0.6 データベース・サーバーが必要です。

AIX 版 Reports R6i のこのリリースでは Express への Oracle8 R8.0.6 ゲートウェイが使用できます。他のプラットフォームでの OLAP Server の接続のサポートに関する情報は、日本オラクルのカスタマーサポート、または日本オラクル Web サイト (<http://www.oracle.co.jp/>) より提供される予定です。

## 5.14 Report Builder と OLAP Server の統合

### 5.14.1 .ORA ファイルの構成

Report Builder が Oracle OLAP Server に対する外部コールを行うためには、TNSNAMES.ORA、SQLNET.ORA および LISTENER.ORA ファイルに次のエントリが含まれている必要があります。

```

TNSNAMES.ORA
-----
extproc_connection_data.world =
(DESCRIPTION =
  (ADDRESS =
    (PROTOCOL = IPC)
    (KEY = EXTPROC%ORACLE_HOME_ID%)
  )
  (CONNECT_DATA = (SID = extproc)
  )
)

SQLNET.ORA
-----
names.default_domain = world
name.default_zone = world
automatic_ipc = off

LISTENER.ORA
-----
PASSWORDS_LISTENER= (oracle)

STARTUP_WAIT_TIME_LISTENER = 0

LISTENER =
  (ADDRESS_LIST =
    (ADDRESS = (PROTOCOL = IPC) (KEY = oracle.world))
    (ADDRESS = (PROTOCOL = IPC) (KEY = ORCL))
    (ADDRESS = (COMMUNITY = NMP.world) (PROTOCOL = NMP) (SERVER =
YourServer) (PIPE = ORAPIPE))
    (ADDRESS = (PROTOCOL = TCP) (Host = <my machine>) (Port = 1521))
    (ADDRESS = (PROTOCOL = TCP) (Host = <my machine>) (Port = 1526))
    (ADDRESS = (PROTOCOL = TCP) (Host = 127.0.0.1) (Port = 1521))
    (ADDRESS = (PROTOCOL=IPC) (KEY=EXTPROC %ORACLE_HOME_ID%))
  )

CONNECT_TIMEOUT_LISTENER = 10

SID_LIST_LISTENER =
  (SID_LIST =
    (SID_DESC =
      (GLOBAL_DBNAME = <my machine>)
      (SID_NAME = ORCL)
    )
    (SID_DESC =
      (SID_NAME = extproc)

```

```
(PROGRAM = extproc)
)
)

TRACE_LEVEL_LISTENER = 0
```

注意: Oracle8/8i データベースが Reports Developer と同じマシンにインストールされており、Net8 を介してそのデータベースに接続していない場合でも、TNS リスナーが実行されている必要があります。

### 5.14.2 Express Oracle8 コンポーネントの Oracle8 8.0.6 ORACLE\_HOME へのインストール

UNIX では、Express Oracle8 外部プロシージャ・コンポーネントが Reports とともに CD に入っています。ただし、そのコンポーネントを Reports の ORACLE\_HOME にインストールしないでください。代わりに、そのコンポーネントを Oracle Server 8.0.6 の ORACLE\_HOME にインストールします。

### 5.14.3 Express ディメンション・ソート — 6.0 レポートの要件

Reports Developer R6i の新しい Express ディメンション・ソート機能は、自動的にリリース 6.0 レポートに適用されません。Report Builder によってリリース 6.0 のレポートをリリース 6i 形式でオープンし、Express の問合せをオープンして、そのレポート全体をリリース 6i 形式で保存する必要があります。

### 5.14.4 OLAP Server からのレポート作成時のエラーORA-28575

このエラーは、デフォルトの TNSNAMES.ORA ファイル（Oracle8 のインストール時に作成されたもの）が上書きされたときに発生します。このエラーに対処するには、上記の「ORA ファイルの構成」の指示に従って、TNSNAMES.ORA ファイルにエントリを追加します。

## 5.15 Reports と OLAP Server の統合の制限

問題: パスワードを必要とする Express データベースを連結できません。

対処: 現時点ではありません。

問題: Express の問合せを含むレポートが Web に配置されている場合に、「Express log-in」ボックスが表示されません。このため、ユーザーが接続を指定することができず、ブラウザでレポートが実行されません。

対処: 意図された動作です。これは RDBMS 接続と同じモデルであり、次のようにして解決できます。



1. パラメータ・フォーム・エディタから利用できるパラメータ・フォーム・ウィザードを使用して、EXPRESS\_SERVER パラメータをパラメータ・フォームに手動で追加します。
2. レポートの'cgicmd.dat'ファイルに EXPRESS\_SERVER パラメータを指定します。
3. EXPRESS\_SERVER パラメータのコンポーネント部分のユーザー・パラメータを作成し、実際の EXPRESS\_SERVER パラメータを作成します。

問題: このリリースでは、パラメータを Express の問合せに渡すことができません。

対処: 現時点ではありません。

## 5.16 レイアウト・モデルの制限

問題: チャート・ハイパーリンクでは、最初から 10 個目以降のハイパーリンクの値が機能しないことがあります。

対処: 現時点ではありません。

問題: ボイラープレート・テキストの値をシングルバイトからマルチバイトに変更すると、GPF（一般保護違反）が発生します。

対処: ボイラープレート・テキストを変更する前に、フォントを'Arial'から'Gothic BBB'に変更します。

問題: マルチバイトの場合、ライブ・プレビューアにおいて「すべて選択」を発行すると、GPF（一般保護違反）が発生します。

対処: オブジェクト・ナビゲータまたはレイアウト・エディタを使用してオブジェクトを「すべて選択」します。

問題: ヘッダー・セクションまたはトレーラ・セクションでレポート・ウィザードを使用すると、メインのレイアウト・セクションが無効になります。

対処: 「追加デフォルト・レイアウト」ツールを使用してヘッダー・セクションまたはトレーラ・セクションのレイアウトを作成するか、これらのセクションがデフォルトになっている場合はレポート・ウィザードを使用してデータ・モデルを変更するのを避けます。

問題: プロパティ・パレットで「検索」機能を使用する場合、「名前」プロパティおよび「コメント」プロパティを持たないレイアウト・オブジェクトがあるために Reports がハングします。

対処: このパレットで「検索」を使用するのを避け、オブジェクト・ナビゲータを使用してオブジェクトの名前を変更します。

問題: Web 用のレポートを開発しているときに、出力イメージを確認するために何度も Report Builder から Web ブラウザに切り替えると、Report Builder がハングすることがあります。

対処: 現時点ではありません。

## 5.17 Web ウィザード

問題: Web 用のレポートを開発しているときに Web ウィザードでテストを行うと、レポートがハングすることがあります。

対処: 現時点ではありません。

## 5.18 バージョンの混合

異なるリリースの実行可能ファイルを混合することはできません。

たとえば、リリース 6i の実行可能 CLI コマンド (rwcli60) を使用してリリース 1.6.1 の Report Server にアクセスすることはできません。

## 5.19 V1-V2-V8 変換:PLSQL V2 の予約語の置換え

PL/SQL バージョン 1 をバージョン 2 以上に変換すると、新しい予約語が既存の表名または列名と重複するという問題が生じることがあります。たとえば、VARIANCE は PL/SQL バージョン 2 以上の新しい予約語です。これらの予約語の中には、大文字のキーワードを二重引用符で囲むことによって表名または列名を参照するための識別子として使用できるものもあります。一般的には、リリース 6i のドキュメントの V1-V2-V8 コンバータに関する記述の通り、新しい予約語のすべてのインスタンスを新しい一意な識別子に置き換えることをお勧めします。

## 5.20 レポートの幅と高さのプロパティの場所

リリース 6 より前のバージョンでは、レポートの幅および高さがレポート・レベルのプロパティ・パレットに設定されていました。Oracle Reports R6.0 および 6i では、ユーザーが、レポートのセクションごとに異なったディメンションを持つことができます。したがって、幅および高さのプロパティは、レポート・レベルのプロパティ・パレットからセクション・レベルのプロパティ・パレットに移動されました。

## 5.21 NULL チャート列の問題

**問題:** チャート・ウィザードを使用する場合にチャート列として使用されているフィールド内のデータが NULL であると、Reports が正しく機能しないことがあります。

**対処:** NVL 関数を使用します。以下に例を示します。

```
SELECT ALL nvl(TRAVEL.NODENAME, 'null') NODENAME,  
            TRAVEL.DESCRPTION, TRAVEL."VALUE",  
            'Profiles of' || decode(TRAVEL.COST, 'I', 'Inexpensive',  
            'E', 'Expensive', NULL) || '  
Travellers' cost_category  
FROM TRAVEL
```

## 5.22 クラスタ化とクラスタ構成

クラスタ化により、複数の Reports Servers 上でレポートを実行できます。クラスタ構成は、マスター・サーバーに対するスレーブ・サーバーの構成です。マスター・サーバーは、使用可能なスレーブ・サーバーを識別し、必要に応じてそのエンジンを起動できます。多くのサーバーをマスター・サーバーに対するスレーブとして設定できます。

構文:

マスター・サーバー構成ファイルでは、次のようになります。

```
clusterconfig="(server=server_name minengine=0 maxengine=1  
initengine=1  
cachedir=/cache) "
```

**注意:** パラメータ値全体を二重引用符で囲む必要があります。スレーブ・サーバーの各定義は、カッコで囲む必要があります。

クラスタ構成パラメータに関連する値の詳細は、『Oracle Reports Developer パブリッシング・レポート リリース 6i』を参照してください。

## 5.23 ドキュメントに記載されていないサーバー構成パラメータ

Failnotefile

Failnotefile は、実行に失敗したジョブの通知メッセージ・テンプレートのパスおよびファイル名です。

Succnotefile

Succnotefile は、正常に実行されたジョブの通知メッセージ・テンプレートのパスおよびファイル名です。

## 5.24 デバッグの中止

REPORTS60\_OWSNODIAG または REPORTS60\_CGINODIAG を yes（または他の任意の値）に設定すると、R60OWS からのデバッグ/診断出力がすべて無効になります（たとえば、[http://your\\_webserver/r60ows/help?](http://your_webserver/r60ows/help?)が機能しません）。

## 5.25 ランタイム・カスタマイズのための JRE の要件

Reports Developer のランタイム・カスタマイズには JRE が必要です。ランタイム・カスタマイズ機能は、Sun の JRE 1.1.7.B に対して保証されています。

ランタイム・カスタマイズ機能を有効にするには、次の環境変数が必要な jar ファイルを指すように設定する必要があります。

REPORTS60\_CLASSPATH は、ランタイム・カスタマイズ機能に必要な jar ファイル、rt.jar、myreports60.jar および xmlparser.jar を指す必要があります。

Windows の場合は、レジストリで REPORTS60\_CLASSPATH を設定できます。

AIX の場合は、シェル・スクリプトで、またはコマンド行から REPORTS60\_CLASSPATH を設定できます。以下に例（C シェル構文）を示します。

```
setenv REPORTS60_CLASSPATH
    $ORACLE_HOME/network/jre11/lib/rt.jar:
    $ORACLE_HOME/reports60/java/myreports60.jar:
    $ORACLE_HOME/reports60/java/xmlparser.jar
```

REPORTS60\_JNI\_LIB には、JVM ネイティブ・ライブラリ（Win32 上では javai.dll、UNIX 上では libjava.so）の場所が含まれています。他の JRE ランタイム・ライブラリ（UNIX 上の libzip.so など）も同じディレクトリ内に存在する必要があります。Windows の場合は、レジストリで REPORTS60\_JNI\_LIB を設定できます。AIX の場合は、シェル・スクリプトで、またはコマンド行から REPORTS60\_JNI\_LIB を設定できます。以下に例を示します。

```
setenv REPORTS60_JNI_LIB
    $ORACLE_HOME/network/jre11/lib/aix/native_threads/libjava.a
```

## 5.26 PLSQL エディタ:DE\_PREFS\_TABSIZE によるタブ・サイズの設定

PL/SQL エディタのタブ・サイズは、DE\_PREFS\_TABSIZE レジストリ・エントリを使用して設定できます。DE\_PREFS\_TABSIZE の値を、PL/SQL エディタのタブ幅（文字数で表します）に設定します。デフォルトでは、タブ・サイズは 2 に設定されています。

## 5.27 R6i より前に作成された HTML パラメータ・フォームへの行追加の必

## 要性

パラメータ・フォームの妥当性チェックを使用する、R6i より前のレポートでは（つまり、パラメータ・フォームがエラーをレポートする場合）、問題が発生することがあります。

この問題を回避するには、手動で、次に示す HTML の行を BEFORE FORM VALUE パラメータ内、または `srw.set_before_form_html` ビルトインを使用してこのプロパティの値を設定するコード内に追加します。

```
<font color=red><!--error--></font>
```

この行を次に示す既存の行の間に追加します。

```
<input name="hidden_run_parameters" type=hidden value="_hidden_">
<center>
```

したがって、拡張されたコードは次のようになります。

```
<input name="hidden_run_parameters" type=hidden value="_hidden_">
<font color=red><!--error--></font>
<center>
```

## 5.28 フィールド・タグでの幅属性の使用

ランタイム・カスタマイズには、「field」タグに、幅を表すオプションの属性が追加されました。

構文: `[width='size_in_characters']`

`width` は、フィールドの長さを文字数で表したものです。

この属性は、新しいフィールドのみに適用されます。既存のフィールドでは、この属性が無視され、そのフィールドの元の幅が使用されます。

## 5.29 ランタイム・カスタマイズの特別な文字

ランタイム・カスタマイズ用の XML では、ASCII 番号が 127 より大きな文字を HTML ASCII にエンコードする必要があります。たとえば、英国のポンド記号（ASCII 文字 163）を XML で使用する場合は、その記号を `&#163` としてエンコードします。

さらに、そのポンド記号を書式マスク属性に入れる場合は、その記号を囲む二重引用符をエンコードする必要があります。以下に例を示します。

```
formatMask="&#034;&#163;&#034;NNNGNNNGNNNGNN099"
```

プログラムで文字の ASCII 番号を検索するには、ASCII 関数（例、`select ascii('') from dual`）を使用できます。

## 5.30 レポートを DESTYPE=MAIL に送る場合の失敗

問題: Report Builder または Reports CGI から desname=<有効な email アドレス>の destype=mail でレポートを送信すると、メッセージ REP-4204 を受け取り、失敗します。

対処: Netscape Communicator をリリース 4.7 にアップグレードします。個人用アドレス帳にメール受信者のアドレスを追加します。

## 5.31 HTML レポート出力からのイメージの欠落

問題: HTML レポートがカートリッジを使用して実行される場合、その出力からイメージが欠落することがあります。

対処: Oracle Application Server (OAS) 管理者のページにアクセスします。適切なアプリケーションの「アプリケーション」セクションで、TreeApplet の「Web Parameters」をクリックします。右のフレームで、Application Mime Types というタイトルのテキスト・フィールドを見つめます。これは、デフォルトで"- jpeg.gif"に設定されています。このパラメータの"gif"拡張子を削除します。

## 5.32 Internet Explorer の認証ウィンドウの反復

問題: Microsoft Internet Explorer を使用して Reports CGI またはカートリッジを実行し、データベース・サーバーまたは保護サーバーに対してユーザーを認証させる場合、何度も認証ウィンドウが表示されます。

対処: IE のオプション「保存しているページの新しいバージョンの確認」の「ページを表示するごとに確認する」を選択します。このオプションは、「ツール」→「インターネットオプション」、「全般」タブの「設定」にあります。

## 5.33 AIX 上の Reports Web CGI と Apache Web Server

AIX 上で Apache Web Server とともに Reports Web CGI を実行する場合、使用するシェル・スクリプトに ORACLE\_HOME 環境変数と LIBPATH 環境変数の両方の値を設定する必要があります。これらの環境変数の詳細はオンライン・ヘルプを参照してください。

## 5.34 Reports と WebDB の統合

リリース 6i では、Oracle WebDB R2.2 と連携し、レポートをブラウザで実行する際のセキュリティ情報（レポートの実行権、Reports Server のアクセス権、プリンタのアクセス権、時刻の指定など）を設定し、Web アプリケーション実行を管理する機能が提供されています。

ただし、これはベータ機能として実装されており、サポートの対象外となります。使用に際して注意してください。

## 5.35 UNIX 上の Reports サブレットからのエラー-500

問題：UNIX 上で Reports servlet を起動すると、次のエラー・メッセージが表示されます。

```
エラー:500
サブレット内部エラー: java.lang.UnsatisfiedLinkError:
                        rwexec
```

この問題は、サブレットが、リンクする必要のあるライブラリを検出できないために発生します。

対処：UNIX プロンプトから次の操作を行います。

```
cp $ORACLE_HOME/bin/rwsvl60.so
   $ORACLE_HOME/lib/librwsvl60.so
```

この操作により、ライブラリが正しい場所にコピーされ、ライブラリの名前が変更されます。

（この問題は、将来のリリースで解決される予定です。）

## 5.36 チャート・ウィザード

このリリースでは、チャート・ウィザードの使用はサポートされません。

## 5.37 フォントの太さの変更について

レイアウト・エディタにおいて、メニューから「書式」→「フォント」のダイアログで、「太さ」を『太』に変更できません。

## 5.38 Reports Server の起動スクリプト

このリリースでは、WebDB Listener と Reports Listener の起動と停止を一括して行うためのシェル・スクリプトを提供します。（\$ORACLE\_HOME/reports60\_server）WebDB リスナ

ーを 80 番ポートなどスーパーユーザー権限の必要なポートにインストールした場合、このシェル・スクリプトを Developer ユーザーで実行しても WebDB Listener は起動されません。その場合は WebDB Listener を Developer ユーザー権限でアクセス可能なポートにインストールするか、シェル・スクリプトを編集して WebDB Listener のポートを変更する等の方法を取ってください。



---

## 6 Graphics Builder

### 6.1 カートリッジに必要な追加ステップ

Oracle Application Server (OAS) および Graphics カートリッジを使用する場合は、OAS と Graphics を別の ORACLE\_HOME にインストールした後に追加操作を行う必要があります。次のサブセクションを参照してください。

#### 6.1.1 AIX 用 Graphics カートリッジのインストール

指示通りに OAS 内で Graphics カートリッジを構成した後、OAS 環境に次の環境変数を設定します。

1. ORATOOLS\_HOME を、Developer の ORACLE\_HOME を指すように設定します。
2. \$ORATOOLS\_HOME/lib を LIBPATH の終わりに追加します。
3. GRAPHICS\_WEB\_DIR を、カートリッジとともに実行する Graphics ファイルの場所に設定します。
4. OWS\_IMG\_DIR を \$ORACLE\_HOME/ows/4.0/admin/img に設定します。
5. ディレクトリ \$ORACLE\_HOME/ows/4.0/admin/img/web\_tmp を作成します。
6. OAS リスナーが物理ディレクトリ \$ORACLE\_HOME/ows/4.0/admin/img を指す仮想パス /ows-img を持つようにします。

上記の変更を行った後、OAS を再起動して環境変数に対する変更を有効にする必要があります。

### 6.2 Unix 上での必要な環境変数の設定

Graphics 統合を Unix システム上で機能させるためには、次の環境変数を設定する必要があります。

```
setenv PRINTER <printer_name>
setenv TK_PRINT_STATUS "echo yes"
```

---

## 7 Query Builder

既知の問題はありません。

---

## 8 Schema Builder

既知の問題はありません。

---

## 9 Translation Builder

既知の問題はありません。

---

## 10 Procedure Builder

既知の問題はありません。

---

## 11 Open Client Adapter

既知の問題はありません。

---

## 12 各国語サポート

### 12.1 すべての言語で確認されている問題

#### 12.1.1 Report Builder のユーザー・インタフェースの不完全な翻訳

一部の言語では Report Builder のユーザー・インタフェースの翻訳が完全ではありません。  
(日本語では、翻訳されたユーザー・インタフェースは提供されています)

それら翻訳が完全でない言語の場合は、英語のインタフェースを使用してください。

そのためには、次の設定をします。

```
DEVELOPER_NLS_LANG=AMERICAN_AMERICA.<charset>  
USER_NLS_LANG=< Language>_<Territory>.<charset>
```

この設定は、Builder を実行しているワークステーションで行います。

<Language>にレポートを実行する言語を代入します。

<Territory>にレポートを実行する地域を代入します。

<charset>に使用する Oracle キャラクタ・セットを代入します。

#### 12.1.2 左から右のみの PDF 形式レポート

問題: PDF 形式で生成されたレポートは、方向設定に関係なく、必ず左から右に表示されます。

対処: 可能な場合は、非 PDF 形式を選択します。

#### 12.1.3 一部のウィザード・ボタンのテキストの未翻訳

Unix システム上のウィザードでは、ボタンのテキストが英語で表示される場合があります。

## 12.2 ダブルバイト言語で確認されている問題

### 12.2.1 シングルバイト・フォントでの編集

問題: Builder のダブルバイト言語実装では、シングルバイトのフォント名（例、Arial）を使用して編集すると、文字化けが起きます。これは、編集フィールドで発生します。

対処: シングルバイト・フォントを使用せずに、ローマン・スクリプトを表示するダブルバイト・フォントを使用します。

## 12.3 日本語で確認されている問題

### 12.3.1 JA16EUC キャラクタ・セットの場合のモジュールの保存不可

問題: キャラクタ・セットが JA16EUC の場合、Oracle データベースにモジュールを保存できません。

対処: 代わりに、JA16SJIS キャラクタ・セットを使用します。

### 12.3.2 Windows から AIX への移行時の長さの制限

問題: 30 バイトを超える長さの（半角カタカナを使用した）名前を持つオブジェクトを Windows から AIX に移行できません。

対処: 現時点ではありません。

### 12.3.3 PL/SQL エディタの表示の問題

問題: 1 行に入力された文字が、複数行に一部重複して表示されます。

対処: 現時点ではありません。

### 12.3.4 PL/SQL ライブラリ名におけるマルチバイト・キャラクタ・セットの使用不可

問題: マルチバイト・キャラクタ・セットを使用して PL/SQL ライブラリ名を作成できません。

対処: 現時点ではありません。



### 12.3.5 XML ファイルからのレポートにおける非 ASCII フォント名の使用不可

問題: NLS\_LANG が American\_America.UTF8 に設定されている場合でも、埋込みフォント名は Shift-JIS エンコードです。この構成では、html の他の文字（ボイラープレートなど）は、UTF8 エンコードです。つまり、出力に Shift-JIS エンコードと UTF-8 エンコードの両方が含まれます。したがって、このファイルをブラウザから処理することはできません。

対処: ASCII バージョンのフォント名を使用します。たとえば、（Windows 環境などでは）MS P ゴシックではなく MS UIGothic を使用します。

### 12.3.6 別の prefs.ora ファイルが必要となる場合

問題: お客様が日本語版のインストールを選択した場合、JA16EUC エンコードの日本語用の prefs.ora がインストールされます。これにより、次のような他の NLS\_LANG 設定でアプリケーションを開発するお客様にいくつかの問題が発生します。

- American\_America.JA16EUC <sup>(a)</sup>  
または
- Japanese\_Japan.UTF8 <sup>(b)</sup>

対処:

- a. アメリカ英語用の prefs.ora ファイルが必要です。これらのファイルをインストール CD からコピーする必要があります。
- b. UTF8 エンコードの prefs.ora ファイルが必要です。prefs.ora ファイルを JA16SJIS エンコードから UTF8 エンコードに変換します。

### 12.3.7 PL/SQL インタプリタのメッセージ・テキストにおける言語の混在

Procedure Builder を実行する場合、PL/SQL インタプリタからのエラー・メッセージ（例、ORA-04098）が英語で表示される場合があります。

### 12.3.8 Unix 上にキュー・カードをインストールするための記憶域の要件

Unix システム上にキュー・カードをインストールする場合、日本語 tar ファイルと US tar ファイルの両方がインストールされます。これらの tar ファイルに必要な記憶域の合計は、約 275Mb です。

キュー・カードはオプションです。記憶領域が小さい場合は、キュー・カードをインストールしなくても構いません。

### 12.3.9 イメージのインポート・ダイアログについて

レイアウト・エディタにおいて、メニューの「ファイル」→「インポート」→「イメージ」で表示される、イメージのインポート・ダイアログの2行目にある『データベース』という項目は正しくは『ファイル』です。右隣の入力フォームにはファイルの場所を入力します。

### 12.3.10 ファイルのオープン/保存ダイアログについて

問題:

ファイルのオープン/保存ダイアログボックスの文字が正しく表示されない場合があります。

対処方法:

ダイアログ下部に並んでいる3つのボタンのうち、左側のボタンを「OK」、中央のボタンを「Update」、右側のボタンを「Cancel」としてご使用ください。

## 12.4 アラビア語で確認されている問題

### 12.4.1 AIX 上でチャートを表示するための制限

AIX バージョンの Oracle Reports Developer R6i を使用してチャートを作成するお客様は、AIX オペレーティング・システムでは、Windows NT に比べてフォントとロケールのサポートが少ないことに注意する必要があります。特に、AIX には正式なアラビア語ロケールがありません。Oracle Reports Developer R6i for AIX では、Unicode ロケールに対するサポートが非常に限られています。

したがって、アラビア語または Unicode を使用する場合、AIX 上で作成されたチャートにはテキストが正しく表示されません。これは、AIX ベースのサーバーにアクセスする Web クライアント上に表示されるチャートでも起こります。これは、チャートがサーバー上でビットマップ・グラフィックにされるために起こります。サーバーが AIX ベースである場合、アラビア語および Unicode のフォントは使用できません。フォーム、レポート、グラフィックの他のテキストは、通常、直接クライアントに送られ、クライアントのロケールで処理されます。

対処方法として、Unicode ではなく西ヨーロッパのチャート・テキスト・フォントを選択することをお勧めします。

---

## 13 その他の問題点

### 13.1 ドキュメントに関する既知の問題点

1. マニュアル『J00918-01 Oracle Reports Developer レポート作成ガイド リリース 6i』の 1 章 「1.3 起動前のデータベース・アクセス権の取得」に下記の記述があります。

このマニュアルで説明するレポートを作成するためには、Oracle Reports Developer デモ・テーブルにアクセス可能であることが必要です。デモ用の SQL スクリプトをインストールしてください。このスクリプトは、データベースにデモ・テーブルをインストールするために使用します。この SQL スクリプトは、「スタート」-「プログラム」メニューから実行できます。

デモ・テーブルを作成するスクリプトは製品 CDROM の次のディレクトリにあります。

```
<CD-ROM>/extras/forms/sql  
<CD-ROM>/extras/reports/sql
```

2. ブラウザによっては特定の文字が正常に表示されないことがあります。HTML のドキュメントで &Auml タグを Netscape で正常に表示できません。
3. サポートするデータベース

Oracle 7.3.4, 8.0.4, 8.0.5, 8.0.6, 8.1.5, 8.1.6 をサポートします。

「Oracle Forms Developer for Windows スタート・ガイド リリース 6i」及び「Oracle Reports Developer for Windows スタート・ガイド リリース 6i」には Oracle8 8.0.5, 8.0.6 および Oracle8i 8.1.5, 8.1.6 をサポートするという記述がありますが、これに加えて Oracle 7.3.4, 8.0.4 もサポートします。

---

## 14 Oracle Developer for AIX R6i Patch1 について

### 14.1 パッチの適用に関する注意点

このパッチを適用する場合には、あらかじめ Oracle Developer for AIX R6i、または Oracle Developer Server for AIX R6i がインストールされている必要があります。

patch\_install.sh スクリプトは\$ORACLE\_HOMEに既にインストールされている製品のみ適用されます。

パッチのアンインストールが必要な場合は patch\_install.sh で作成されるバックアップ・ファイル及び patch\_deinstall.sh スクリプトを削除しないようにしてください。

バックアップ・ファイルは全て拡張子が.PRE\_P1 になります。

このパッチを適用後に HTTP または HTTPS 機能を用いて Forms アプリケーションを Web 環境でご利用いただく場合は、JInitiator1.1.7.30o 以上を使用する必要があります。

パッチを適用する場合は、インストールされているすべてのコンポーネントにパッチを適用する必要があります。たとえば、Forms のみにパッチを適用し使用することはサポート対象外となります。

WebDB Listener を使用するように設定されていた場合、Patch1 をインストールすると既に登録されていた WebDB Listener の仮想ディレクトリの設定ファイルに、新しく同様の仮想ディレクトリの設定が追加されてしまいます。ただし、WebDB Listener は同じ仮想ディレクトリの設定が複数あった場合には、最初のエントリの方を有効とし、後から追加された同じ名前のエントリの設定を無視しますので、動作的に問題はありません。

Forms か Reports の one-off パッチを適用する場合は、patch1 をインストールした後に、それらのパッチを再適用する必要があります。

Oracle Application Server 4.0 で、Oracle Developer Graphics カートリッジを使用して Web アプリケーション配布を行う場合、LIBPATH の検索順序において、Graphics ライブラリのパスを OAS ライブラリのパスよりも先に設定するようにして下さい。

### 14.2 サポート・プラットフォームの追加

Web クライアント・プラットフォームの JInitiator1.1.7.30o は従来までのクライアント OS に加え Windows 2000 でもご利用可能です。ただし、Internet Explorer との組み合わせでのみサポートされております。Netscape につきましては、将来のバージョンにてサポートされる予定です。

## 14.3 CD の内容

CD のルート・ディレクトリには次のファイルがあります。

README.dev6i.p1

developer6i\_patch1.tar.Z

README.dev6i.p1 は英語版 README ファイルです。

developer6i\_patch1.tar.Z がパッチ・ファイルです。

このパッチには、コンポーネントを以下のバージョンにアップグレードするためのモジュールが含まれています。

Forms	6.0.8.10.3
EWT	3.3.15
Reports	6.0.8.10.1
Graphics	6.0.8.10.0
OPB	6.0.8.10.0
TK	6.0.8.10.1
vgs	6.0.5.35.0
sqlmgr	6.0.8.10.0
ocl	6.0.8.10.1
gcw	6.0.8.10.0
jdkav	1.1.7.30o
jinit	1.1.7.30o

## 14.4 インストール方法

注: Oracle Applications ユーザーは Oracle Applications のドキュメントを参照してください。

1. 環境変数 ORACLE\_HOME を設定します。
2. ファイル developer6i\_patch1.tar.Z を \$ORACLE\_HOME にコピーします。
3. Uncompress を実行します。

```
uncompress developer6i_patch1.tar.Z
```

4. Untar を実行します。

```
tar xvf developer6i_patch1.tar
```

5. 次のコマンドを実行します。

```
cd $ORACLE_HOME/developer6i_patch1
```

6. インストールのためのシェルスクリプトを実行します。

```
./patch_install.sh
```

7. 環境変数 LIBPATH に

\$ORACLE\_HOME/network/jre11/lib/aix/native\_threads を追加します。

8. Relink します。

```
cd $ORACLE_HOME/procbuilder60/lib; make -f ins_procbuilder.mk install
cd $ORACLE_HOME/forms60/lib; make -f ins_forms60w.mk install
cd $ORACLE_HOME/reports60/lib; make -f ins_reports60w.mk install
cd $ORACLE_HOME/graphics60/lib; make -f ins_graphics60w.mk install
cd $ORACLE_HOME/browser60/lib; make -f ins_browser60.mk mininstall
```

## 14.5 アンインストール方法

1. 環境変数 ORACLE\_HOME を設定します。
2. アンインストールのためのシェルスクリプトを実行します。

```
./patch_deinstall.sh
```

3. Relink します。

```
cd $ORACLE_HOME/procbuilder60/lib; make -f ins_procbuilder.mk install
cd $ORACLE_HOME/forms60/lib; make -f ins_forms60w.mk install
cd $ORACLE_HOME/reports60/lib; make -f ins_reports60w.mk crinstall
mrinstall dinstall wininstall
cd $ORACLE_HOME/graphics60/lib; make -f ins_graphics60w.mk install
cd $ORACLE_HOME/browser60/lib; make -f ins_browser60.mk mininstall
```

## 14.6 このパッチで修正される不具合

修正される不具合の一覧は英語版のリリースノートを参照してください。